

● 9・7

A夫（以下「A」とする）「夜、自転車であちこち走り回るので父が自転車を処分しました。どうしても欲しいのでついやってしまいました」
 学年主任（以下「学」とする）「正義に反する行為は絶対にいけない。それにしてもずいぶん顔色が悪い。夜ふかしとタバコのせいだろう」

A「かなりの沈黙の後、認める）タバコはくせになっていてどうしてもやめられません」

学「やめたいと思うか」

A「（長い沈黙）はい」

学「やめる方法がある。やってみるか」

A「（沈黙）やってみます」

学「本当にやるのか。しかし大変だよ。仲間が吸っていて自分だけ吸わないでいられるか。つらいぞ」

A「（かなりの間をおいて）先生方に迷惑ばかりかけています。タバコをやめます。先生、みんなも助けてやって下さい」

A夫は学年主任に1週間ごとに喫煙本数を減少させる目標を定め、6週間後に完全に断煙することを約束した。学年主任は他の3名の生徒にも同様の働きかけをし、彼等の自発性を尊重しながら、行動療法により断煙する誓いをさせた。

8. 指導仮説 その2

断煙のために行動療法（形成化法）を採用する。生徒の自発的なコントラクト（契約）であるので、これによって断煙が果たされるであろう。

また、教師集団の役割分担による人間味溢れる適切な指導により生徒の学習意欲が格段に向上した。これは教師集団とA夫たちとの信頼関係が成立し、最も根本にあった愛情と承認欲求の問題が解決されつつあるからである。そして所属する集団内でのトラブルもほとんどなくなっている。したがって、断煙が果たせれば、他の問題行動も必ず改善されていくであろう。

断煙のための行動療法は、一時的にせよ教師が中学生に喫煙を認めることになるが、これは学年

主任に限ってのこととする。他の教師は組織的に禁煙指導にあたる。内と外との二面的な指導によって、より効果的な指導となるであろう。

9. 指導援助の経過

● 9・14

生徒指導主事と養護教諭による禁煙指導
 「煙草と健康」（16mmフィルム・警察署から借用）の映写をし、タバコの害について十分に納得させた。

● 9・24

第1回目の喫煙表

氏名	月日等	9/10-16 の喫煙本数	9/17-23 の目標本数	9・17	9・18	9・19	9・20	9・21	9・22	9・23	計
A 夫		112	80	18	18	16	17	18	15	16	118
B 彦		93	60	10	13	13	13	16	13	16	94
C 郎		86	50	12	13	14	12	10	10	14	85
D 幸		46	30	9	5	8	8	7	7	7	51

学「どれどれ。おや減っていないがどうした。説明しなさい。（かなりの間）説明できないのか。約束事はどうなった。一週間、私はお前たちのことを信じていた。（大声で）裏切られた気持ちだな。約束して信じていた方の気持ちを考えたことがあるのか。お前たちは自分の良心に恥じないのか。（痛恨の口調で）私はお前たちを信じていたんだぞ。（間）今度破ったら許さんぞ。（かなりの間）本気でやる気があるのか。（間）今度こそ本気でやるんだぞ。私は心から信じている」

（学年主任は自分の真実の気持ちを4人の生徒に全身で打ちつけた。初めての怒りの表現でもあった。4人は首をうなだれ体を震わせていた。しばらくして、4人は顔を上げすがるようにして学年主任を見つめた。それは教師の指導を素直に受け入れるというシグナルであった）

● 9・28

警察官による禁煙指導（自転車窃取の取り調べ時に、学校から依頼した）

・両親に対して

「未成年者喫煙禁止法」により、子供の喫煙は